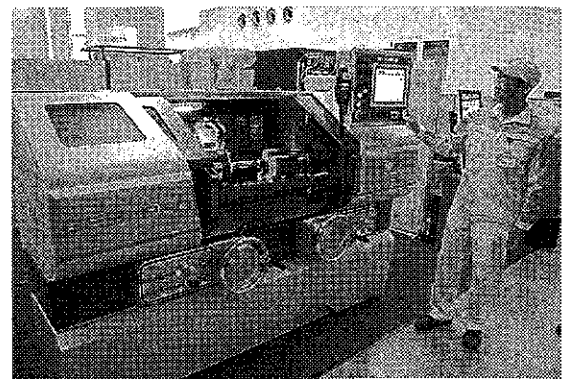


研究現場 発



名城大学薬学部大学院
薬学研究科病態解析学 I 教授
野田 幸裕

主力研削盤、20年ぶ 改善促す新システム



熟練技術者仕様で手動操作機能を持つ「GE3i-PRO」

木の土台となるヘッドの設計を変更。膨張などを抑制する。搭載する最新の CNC は、従来の5倍の演算速度などで非加工時間の短縮を実現。作業者の安全を確保するため、汎用機としては初めて開口部にカバーをオプション設定した。シリーズはベース機「GE3i」と熟練技術者仕様で手動操作機能を持つ「GE3i-PRO」、研削能力を高めた「GE3i-H」

YPER」の3機種。合計で年間50台の販売を目指す。新たなプラットフォームは「TOYOPUCAA A」。生産設備に接続し各種データを収集する。収集したデータを蓄積し解析す

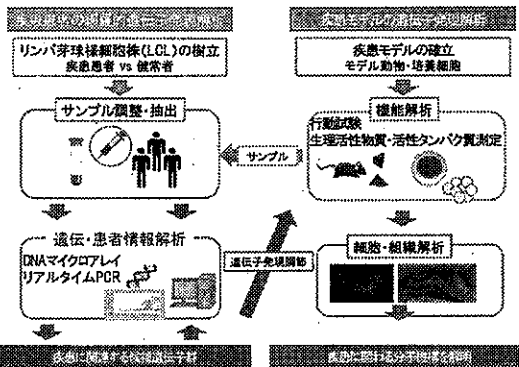


改善しやすくする機能を搭載した」と説明する。販売目標は同500台。11月17日から開催される日本国際工作機械見本市(JIMT OF)に出展する。

国内受注は15・4%減の128億円。マイナスは12カ月連続。主要ユーザーの自動車工業向けが8カ月連続で前年を下回った。一方、海外受注は12・3%減の205億円。マイナス

主要市場の増と4カ月を上回った。13%減と大きい。米国の増開かれた工

基礎・臨床研究の架け橋



基礎・臨床研究の橋渡しによる精神疾患やがん領域の分子メカニズム解明

や細胞を用いた基礎研究で見出した成果を臨床で応用する「トランスレーショナル・リサーチ(橋渡し研究)」が推進されています。

る治療効果(ドパミンD3受容体やニコチン受容体サブユニット)や副作用(ヒスタミンH4受容体)の標的受容体の関与を見出しました。一方で、臨床サンプルや臨床情報から治療薬の効果や副作用、遺伝情報や患者背景との関連性を解析し、がん疾患における疼痛やがん治療における治療反応性に関する遺伝子(セロトニン5-HT3受容体サブタイプや代謝酵素COMTの遺伝子変異)を報告しています。

こうしたトランスレーショナル・リサーチから、疾患の発症や治療反応性に対する予測バイオマーカーの開発を手がけ、個々の患者さんに合った安全で最適な治療、パーソナライズド・メディスン(個別化医療)の実現を目指しています。

疾患に関する脆弱要因の 発見と臨床応用に向けて

国民が健康で豊かな生活を送るためには、医学、薬学や工学など異なる学問分野の融合が喫緊の課題となっています。特に医療現場においては、医薬品の開発および新たな医療の提供に向けて、動物

学部附属病院内に設置された当室は、名古屋大学医学部・医学系研究科や地域薬局と連携し、基礎・臨床の融合を図った研究を行っています。

トランスレーショナル・リサーチのニーズが高い疾患の一つとして精神疾患があり、遺伝的要因と環境的要因が相互に関係して発症すると考えられていますが、それらの要因は特定されていません。疾患の発症や治療反応性は問診などによって主観的に評価され、他の疾患の様に血液検査などの客観的な評価は確立されていません。そこでこれまでの仮説に囚われず、モデル動物や培養細胞を用いて精神疾患の標的部位である脳と臨床応用可能な血液サンプルから

社長直轄の委員会設置

MRJ開発で意思決定迅速化

三菱重工

の遅れでこの期を延期し工本体が開項に関する推進を迅速化する狙

委員会で